



授業参観・学級懇談会・講演会ありがとうございました

本日17日(火)は、授業参観並びに学級懇談会、そしてPTA講演会に多数参加いただき、ありがとうございました。本校では、令和4年度から学校のキャラクター「帯西レンジャー」に道德の4つの視点を「4つの心」として意味付けて、道德科と特別活動を学校教育の基盤に据えた道德教育の充実に取り組んでいます。その一端を授業参観で公開できたら、という思いで、授業は道德科か学級活動に取り組んでもらいました。



昨年度も紹介しましたが、OECD*（経済協力開発機構）は、これからの時代に必要な力として、①新たな価値を創造する力 ②対立やジレンマを克服する力 ③責任ある行動をとる力の3つを設定しています。これらは、活動の目標の達成のために、方法や手段などを全員で考え、折り合いをつけながら話し合い、自分の役割や責任を果たすとともに、それを協力して実践し、学級文化を創造していく本校の道德教育の在り方と同じ方向を向いていると考えています。これらは非認知的能力とも呼ばれ、いま世界中で注目されています。本校の道德教育を通して、子供たちには、これからの時代を切り拓いていって欲しいと思います。

*ヨーロッパ諸国を中心に日・米を含め 38ヶ国の先進国が加盟する国際機関

わくわくチルドレン紹介

12月15日(日)の熊日朝刊にも掲載されていて、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、「くまもとジュニアプログラミングアワード」において、4年生の井澤 駆さんが、小学生の部でグランプリに輝きました。この大会は、熊本県内の小中学生がプログラミング作品のアイデアや完成度を競う大会です。この大会は、7月のエントリーから始まり、10月下旬の一次審査、そして12月の本審査と、長期にわたって行われます。さらに本審査では公開で、プレゼンで自分のプログラミング作品を紹介し、表現力まで試される大会となります。新聞記事には「道德の授業をきっかけに、自己肯定感を高められるアプリを制作。来年3月に県代表として全国大会に出場することから『アプリを使ってもらえるように全国大会でもアピールしたい。』と話した。」と井澤さんのコメントが掲載されています。帯西の取り組みが少しでも役に立っていると思うと嬉しいです。井澤さんにインタビューすると「道德の時間に、幸せについて考えることがあって、幸せについて調べたら、自己肯定感が大きく関係していることがわかりました。自己肯定感を上げることが幸せに繋がります。僕が作ったアプリを使うことで、自己肯定感を高める手助けをしてくれます。そのよさを全国大会でも会場の皆さんに伝えられたらいいと思います。」と抱負を述べています。全国大会でも是非、力を発揮して欲しいと思います。



自身の新聞掲載記事を手にする井澤さん